

朋友通信 2018・7・14(土)〜16(月)

「利尻・礼文自然の旅」を終えて



日本の最北端にある利尻・礼文島の島めぐり、素晴らしい自然との触れ合いを感じながら、そしてご一緒した旅の仲間との和やかな交流を楽しみながら、「旅システム」スタッフで添乗された片川さんはじめ、同行された社長の内山さん、そして時々には沖縄までも応援運転に駆け付けられるという超ベテラン運転手の山中さんに支えられ、そして更に不思議なご縁として「旅システム」事務所が入っている同ビルに有る「喫茶アイランド」のオーナー谷口さんと添乗員の片川さんが礼文との関りが随分とお有りです、様々な特典が加わったりして、「利尻・礼文の旅」が通常よりも何十倍も満喫出来る内容の旅となりました。古稀を越えようとしている私が30歳の頃利尻ご出身の素敵な人に出会ったり、大層お世話にな



ったり、また利尻高校が野球では強豪校で一時期新聞紙上を賑わはせた事も有ったりして、更に知人が礼文の「久種湖」で仲間と楽しめた釣り模様を話されたり、私にとってはとても興味深い、出来たら一度は訪れてみたい「利尻・礼文」でした。その様な思いを持ちながら過ごしておりましたら今年の5月頃の新聞折り込みに「利尻・礼文自然の旅」というパンフレットが入って来ました。妻に「行かないか！」と声を掛けると妻も乗り気で昨年、私達夫婦が育った町「夕張みちもりの語り」という企画旅行に行ったところ思いのほか良かったこともあり、弾みがついて「今年はこのだ！利尻・礼文だ」ということになりました。私共は札沼線が通る「拓北」という駅の近くに住んでおり線がほぼ決まった「新十津川・浦臼」線と「月形・当別」線のまちもりの語りという日帰り旅企画に7月上旬、参加してきたばかりでしたが、私共にとつては「利尻・礼文」の旅はきつと今年のメインの旅になりそうだと色々な思いを膨らませて「利尻・礼文自然の旅」に参加





することに致しました。今回は利尻・礼文の島がどんなところかこの目で見る事でしたが、美しい自然の景色に触れて、感動出来た事もたくさんありました。が何よりも増して「一緒に遊ばせて頂いたお仲間の方々と懇意にさせて頂き、素晴らしい景色と自然の神秘さ等を共有させて頂き、楽しい時間を過ごさせて頂いた事が一番の財産となりました。旅の一日目は曇り空でしたが穏やかな日で日本海オロロンラインを車中の窓から眺めながら社長の解説も交えながら景観を楽しみました。稚内港からは3500トンクラスのフェリーに乗り込み夕方6時半頃生まれて初めて利尻の地、鴛泊(おしどまり)港へ到着致しました。翌朝は強い雨が降りしきり風も強く、悪天候で、こんな日に観光なんて、と思いがちですが雨模様の日も又楽しからずやです。こんな日こそ風流な気がしていることが有りそうです。案の定、添乗



員の片川さんの機敏な対応で「レブニアツモリソウ」が高山植物園で花を付けて展示されているとの情報を得、進路を急遽変更し、こちらの方へと方向転換致しました。お陰様で可愛らしいふくらした白い本物の世界にここだけしかない「レブニアツモリソウ」の花を見ることが出来ました。旅の二日目の7月15日(日)は雨や強風も昼頃には治まり、11時半頃利尻島香形(くつがた)を出港し40分位で礼文の香深(かふか)港に到着しました。北のカナリアパークや桃岩、猫岩を観光しながら1時頃昼食を取る為香深港ターミナル内にある「武ちゃん寿し」というお店で盛り付けたつぶりの海鮮丼を参加者全員でご馳走になりました。このお店のマスターと「喫茶アイランド」のママさんが同期生との事でお寿司の盛り付けも増量されている様でした。その後「礼文」の観光名所を回り夕方6時頃宿泊ホテル「花れぶん」に到着です。「花れぶん」のサービスレベルにはとても感動しました。心遣い、気配り、言葉使い等、とても教育されている様に思えました。勿論料理も最高でした。「おもてなし」の心が伝わってきます。添乗員の片川さんはこのホテルのオーナーさんのご親戚との事でした。食事後有志声かけ合って近くのカラオケに行き更に交流を深め、翌日稚内の「樺太記念館」や「副港市場」等に寄り、6時半頃旅の思い出を胸にいっぱい詰め込んで無事札幌駅北口に到着致しました。皆さん大変お世話になりました。

